

子ども図書研究室だより

2026.10 発行 NO.109

静岡県立中央図書館

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

令和8年度4月～9月にかけて行った事業について報告します。また「子ども図書研究室講演会」は次のページで詳細を報告します。

子ども図書研究室新刊紹介

子ども図書研究室では、全点購入している児童書のうち選定した図書を参加者の方に紹介する「子ども図書研究室新刊紹介」を実施しています。第1回は8月1日に実施し、令和8年2月以降に選定した児童書について、それぞれの特徴や優れていると考えた点などを紹介しました。また後日、Youtubeでの動画配信を行いました。第2回の日程は次のとおりです。

第2回 子ども図書研究室新刊紹介

場 所：静岡県立中央図書館

時 間：令和9年2月24日（水）

10：00～11：30

会 場：当館 中集会室または会議室

募集開始：1月下旬

動画配信：令和9年3月12日（金）午前10時
～4月30日（金）午後5時まで

第2回は、令和8年8月以降に選定した児童書を紹介する予定です。申し込みは、令和9年1月下旬から開始します。図書館や学校で選書に悩んだ際の参考にしていただければ幸いです。

新刊児童図書巡回貸出

「新刊児童図書巡回貸出事業」は、子ども図書研究室で全点購入している児童書を、県内市町立図書館の協力館に貸し出し、希望する近隣市町の図書館員や学校の教職員を対象に公開するものです。今年度は東伊豆町・三島市・藤枝市が協力館となっており、令和8年4月～7月に当館で購入した児童書を、順次公開しています。

東伊豆町・三島市は公開期間を終了しましたが、藤枝市では11月まで公開します。

公開日や申込方法など、詳細を知りたい方は、こちらの二次元コードからご確認ください。



子ども図書研究室講師派遣

「子ども図書研究室講師派遣事業」は、県内の各市町立図書館及び学校図書館等で子どもと本をつなぐ活動をしている10人以上の団体を対象に、当館職員が市町の図書館等へ伺って、初心者向けの講義・演習を実施するものです。例年、読み聞かせや児童書の選書に関する講座を行っています。

本年度の募集は終了しましたが、来年度の募集開始は5月を予定しています。興味のある方は来年度以降、ホームページをご確認ください。

子ども図書研究室って？

子ども図書研究室は、県内の子ども読書活動推進のため、研究用として、出版されている児童書・絵本を、可能な限り全点購入しています。児童書の調査・研究、旧版と新版の読み比べ、授業や学習で子どもたちが使うための資料を探すなど、多様な目的で活用していただけます。児童書に関してのレファレンス（調査・研究のお手伝い）も行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

職員在室時（午後2時から午後5時）は、どなたでもご利用いただけますが、小学生以下の方は保護者の同伴が必要です。職員不在時（午前9時から午後2時）は中学生以上の方のみご利用いただけます。ご利用いただける時間帯が、中学生以上であるかそうでないかで異なります。ホームページなどをご確認の上お越しください。

子ども図書研究室講演会

絵本編集者の鈴木加奈子氏をお招きしました。

『むかしばなし絵本から広がる世界』と題して、鈴木氏が企画編集された『世界のむかしばなし絵本』シリーズ（BL出版）一冊一冊への思い、制作の舞台裏等をご紹介いただき、むかしばなしの豊かな世界、子どもたちに届ける意義についてご講演いただきました。

1 昔話を絵本にしようと思ったきっかけ

20年前に海外旅行した際、インドで出会った現地のこどもがインドの神さまのおはなしを語るのを聞き、昔話が生活に息づいていることをとても面白いと感じ、改めて昔話について学びなおした。昔話は本来声から耳へと伝えられる口承文芸であり、独特の語り口や様式はシンプルで、筋だけが語られる。こどもたちが昔話に触れる機会は減っているが、話すとこどもたちは昔話に引き込まれていく。それは、昔話にこどもたちの発達段階と響き合うものがあるからではないかと思う。編集者として昔話をこどもたちに届けたいと考えようになった。

また、松岡享子氏と降矢なな氏の『三本の金の髪の毛一中・東欧のむかしばなし』（のら書店）の編集に携わった際、たくさんの学びがあり、昔話を本にする意義を感じた。その過程で、昔話には画家のイメージーションをかき立てる源泉があるのではないかということも感じ、絵本のシリーズにできたら、こどもたちが世界を旅するように、世界に目を向ける窓になるのではないかと夢が膨らんだ。

口承文芸である昔話を絵本にすることは難しく、絵本にできる昔話を探すところから困難を極めたが、中でも昔話の怖さや現代の倫理観とのギャップが大きく立ちはだかった。怖い展開をどう扱い、どう表現するかを慎重に考えることに心を留めた。

絵本として物語の世界に入っていけるか、ページをめくるリズムと昔話のリズムが合うか、絵にしたときに矛盾が生じないか、ショッキングになりすぎないかという検証を重ねて一冊一冊のお話を確定していった。

2 シリーズの紹介～6つのパートに分けて

(1) 巨人やトロル

『巨人の花よめ』（菱木晃子/文 平澤朋子/絵）

北方の先住民族サーメに伝わる美しい娘が恐ろしい巨人に求婚されて知恵を振り絞って切り抜ける物語。厳しい自然の中で生きる人々が感じた自然の驚異の象徴としての巨人が、現地での丹念な取材をもとに、ダイナミックに圧倒的な表現で描かれている。

『チンチラカと大男』（片山ふえ/文 スズキコジ/絵）

コーカサス地方ジョージアの昔話。チンチラカが王様から大男の宝を盗んで来いと無理難題を命じられることから始まる物語。雄大な山々、乱暴者だがどこか抜けている大男や喋る楽器パンドゥリなどが、圧倒的な勢いと迫力で描かれている。

『ライオンとタカとアリになった男の子』（菱木晃子/文 MARUU/絵）

ノルウエーの昔話。ライオン、タカ、アリに変身できる不思議な力を授かった男の子が恐ろしいトロルにとらわれたお姫様を助け出す冒険譚。クライマックスのトロルがこっぴみじんにはじけ飛ぶという展開では、読者の想像に委ねるという選択をし、ページをめくると美しい場面が現れる。

(2) 怖いおばあさん

『アチケと天のじゃがいも畑』（宇野和美/文 飯野和好/絵）

ペルーの昔話で、アンデスの山を舞台におなかをすかせた姉弟が、アチケというおばあさんに追い回される物語。土地の動物や天の神様に助けられ、最終的にはじゃがいも畑にたどり着く。映画のような画面構成は、ページをめくるたびに視点が変わりライブ感が生まれている。

『ヘビと船長』（ふしみみさを/文 ポール・コックス/絵）

フランス・バスク地方の昔話。すべてを失った船長が、散歩中に会った不思議なヘビに導かれて奇妙な運命に巻き込まれていく。細かく割られたコマ割りの表現が、テンポのいい昔話のリズムと共鳴している。怖いおばあさんの場面は窓から怖いものを覗いているような効果がある。

(3) 飛躍した展開や表現

『七人のシメオン』（田中友子/文 大畑いくの/絵）

顔も背丈も名前も全く同じ七人兄弟それぞれが超人的な得意技を持っている、ロシアの昔話。昔話の空気感をとらえ、果てしなく広がる想像の世界を、のびやかな見事な色彩とタッチで表現して

いる。

『花売りセンパチュンチュン』（茂市久美子/文
アヤ井アキコ/絵）

エベレストの麓で暮らす先住民族シェルパに伝わる、ネパール・ヒマラヤの昔話。主人公が、動物たちの会話を偶然耳にすることで難題を解決していく。主人公の行動をくっきり浮かび上がらせ、お話の軸がぶれない画面作りを考え抜いた。

『にじをかけたおすめ』（宝迫典子/文 後藤仁/絵）

中国最古の少数民族の一つである苗（ミャオ）族の、虹の由来を伝える昔話。日本画の技法で、丹念に美しく描き、切ない物語や魔法的展開に説得力を与えている。令和7年度児童福祉文化賞推薦作品。

（4）水底の世界

『ヴォドニークの水の館』（まきあつこ/文 降矢なな/絵）

チェコの昔話。貧しさに絶望した娘と水底に暮らすヴォドニークを巡る、生と死と再生の物語。降矢さんが長年描きたいと思い続けてきた、娘が壺に囚われた魂を解放する場面のある、美しくも切ないヴォドニークの絵本が実現した。第69回産経児童出版文化賞美術賞受賞。

『おはなしはどこからきたの？』（さくまゆみこ/文 保立葉菜/絵）

お話の起源を伝える、南アフリカの昔話。主人公がお話を探しに動物たちに訪ねて回り、ついには海の底で暮らす精霊の人たちから素敵な贈り物をもたらす。素朴でシンプルな木版画の表現で、暗闇にゆらめく炎の温かさや、場所の変化、主人公の心の動きなど、豊かに伝えている。第72回産経児童出版文化賞美術賞受賞。

（5）ユーモラスな世界

『まめつぶこぞうパトゥフェ』（宇野和美/文 ささめやゆき/絵）

スペイン・カタルーニャの昔話。豆粒のように小さい男の子パトゥフェが元気に町へ出かけるが、途中で大きな牛に食べられてしまってさあどうなるかという物語。カタルーニャ語が持つ独特のリズムを大切にした翻訳と、シックな味わいのある絵が魅力のユーモアラスな絵本となった。

『勇士アフマド』（愛甲恵子/文 網代幸介/絵）

イランの昔話。主人公のアフマドが冗談で自分

の斧に「槍一本で300もの敵を倒す勇士アフマド」と彫ってもらったことから始まるユーモアあふれる物語。軽快な再話と摩訶不思議な絵の世界が、見事に調和している。

（6）試練と幻想世界

『ノロウェイの黒牛』（なかがわちひろ/文 さとうゆうすけ/絵）

イギリス・スコットランドの昔話。黒牛と結婚してもいいという娘と、呪いで牛の姿に変えられてしまった王子の困難な旅路の物語。物語の背景に想いを巡らせ、どの場面も膨大な試行錯誤を重ね、胸に迫る絵本が完成した。

『金の鳥』（八百板洋子/文 さかたきよこ/絵）

ブルガリアの昔話。金の鳥をとらえる旅に出た末の王子をめぐる幻想的な物語。クラシカルでかつモダンな雰囲気を持ち、不可思議でありながら圧倒的な美しさを放つ色彩で表現された。第25回日本絵本賞受賞。

『梨の子ペリーナ』（イロ・カグーノ/再話 関口英子/訳 酒井駒子/絵）

イタリアの昔話。理不尽な扱いを受けながらも冒険の途中で出会ったものたちの苦しみを開放してあげる、心優しく勇敢なペリーナの物語。愛らしいペリーナと恐ろしげなモチーフの表現が対比となって、昔話特有の対比構造が鮮やかに浮かび上がった。第23回やまねこ賞絵本部門大賞受賞。

3 終わりに

昔話は、「人間とは何か」「この世界をどう生きていくか」ということを象徴的に語っている。昔話に出会うことは、生きていく上での根源的な力を少しずつ確実に体得して、その人の内側から支える礎になるのではないかと思う。こどもたちにとって、昔話に出会うことが、人間のあり方への理解を深めていくきっかけの一つになることを願っている。絵本は数分で読めるものだが、一人で読んでも誰かと読んでも、はるか広く深く豊かな世界につながるができる。ぜひ、いろいろな絵本に触れて特別な1冊に出会っていただきたい。

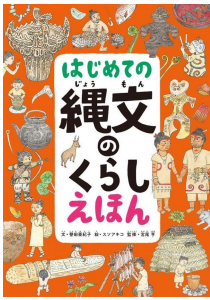
（文責：資料課 木村）

※本講演の動画配信中。10月30日まで。



こちらの二次元コードから
視聴申込できます。

知識



『はじめての縄文のくらしえほん』
 譽田 亜紀子／文
 スソ アキコ／絵
 宮尾 亨／監修
 パイインターナショナル
 2026 年 2 月

食料にする動物を追い、各地を転々としながら暮らした旧石器時代と異なり、家を建て、道具を作り、集落の中で人々が暮らした縄文時代。

この本は、そんな縄文時代の暮らしを、春夏秋冬の季節ごとに、丁寧なイラストと易しい文章で解説した知識絵本。春の場面では古くなった家を建て直し、森から採取した山菜を仕分ける様子が描かれ、夏の場面では緑が鮮やかな集落で、衣服の材料となる「からむしの糸」を作る様子を見ることができ、魚のさばき方や、利用していた調味料の解説等もあり、様々な角度から縄文人の暮らしを知ることができ、調べ学習にも利用可能。

【小学校高学年から】(仲本)

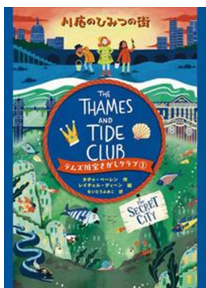
読物



『ハヤ号セイ川をいく』
 フィリパ・ピアス／作
 エドワード・アーディゾーニ／絵
 原田 勝／訳
 岩波書店
 2026 年 3 月

デイヴィッドは11歳の男の子。夏休みのある日、家の裏を流れるセイ川の栈橋に流れ着いた古いカヌーを見つける。持ち主を探すためカヌーに乗り、上流に遡ったデイヴィッドは、コドリング屋敷という大きな屋敷に住む少年アダムと出会う。デイヴィッドは、アダムが祖父と叔母と暮らしていること、コドリング家は昔は裕福だったが、今では祖父の年金で暮らしていることを知る。アダムはデイヴィッドに、祖父たちのためにコドリング家が過去に持っていた宝を見つけ出す計画を打ち明け、2人は協力して宝を探し出そうとする。フィリパ・ピアスのデビュー作。 【小学校高学年から】(仲本)

読物

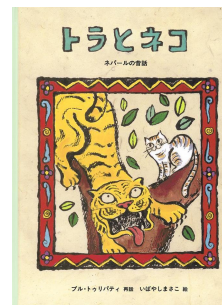


『テムズ川宝さがしクラブ』全3巻
 カチャ・ベーレン／作
 レイチェル・ディーン／絵
 ないとう ふみこ／訳
 徳間書店 2026 年

ロンドンに住む女の子クレムと同じ団地に住むザラとアッシュは、テムズ川わきの博物館が主宰する〈テムズ川宝探しクラブ〉のメンバー。

ある日、クレムがテムズ川で金属の輪っかを拾うと、街中のマンホールや床のひび割れから水があふれ、川が荒れる異変が広がる。博物館の謎めいた館長オズワルドさんに輪っかを川に返すように命じられた3人は魔法のマントでテムズ川の川底へ。そこには、ロンドンとよく似た街が広がり多くの水の生き物達が暮らしていた。クレムたちの織り成すライトな冒険ファンタジー全3巻。 【小学校中学年から】(三枝)

絵本



『トラとネコ ネパールの昔話』
 プル・トゥリパティ／再話
 いばやしまさこ／絵
 福音館書店
 2026 年 4 月

昔、トラとネコは仲の良い親戚で、同じ森で暮らしていた。木をすいすいと登るこどものネコが羨ましくなったトラのおじさんは、ネコに木登りを教わる。一生懸命練習をしてやっと木の上まで登れたトラだったが、怖くて降りられなくなってしまふ。おなかがすいたトラがネコを食べようとし、ネコは一気に降りて逃げたが、トラはうまく降りられず木から落ちてしまふ。怒ったトラはネコを追いかけて…。ネコたちが人間の家で飼われるようになった由来を語り継ぐ、ネパールの昔話。

【幼児から】(山中)